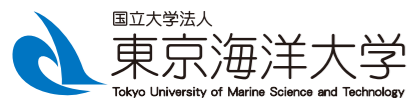




OQEANOUS

Oversea Quality-assured Education in Asian Nations
for Ocean University Students

<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/>



東京海洋大学 国際・教学支援課 OQEANOUS(オケアヌス)事業担当
〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
TEL:03-5463-0418 FAX:03-5463-0437
E-mail:oqeanous-office@o.kaiyodai.ac.jp

IJP OQEA

Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students

N OUS

東京海洋大学 オケアヌス留学体験記

International Joint Program
&
Double Degree Program



＼ OQEANOUS IJP 留学体験記 ／

派遣先: 韓国海洋大学 派遣期間: 2017年9月～2018年2月

海事システム工学科4年 片岡 将之輔



◆プロフィール

私は海事システム工学科の片岡 将之輔です。2017年9月から2018年2月までOQEANOUS-IJPを利用して韓国海洋大学に留学していました。韓国海洋大学では、本当に貴重な経験をさせて頂きました。これから私の体験したことの一部を皆さんにお話したいと思います。

◆韓国の講義

韓国海洋大学の講義は、基本的に1コマ3時間です。日本の倍の講義時間なので集中力がとても重要になります。とは言っても3時間集中力をいきなり続けることは難しいです。そこで私は、ボイスレコーダを使って聞き逃してしまった所や理解できなかった所を何度も聞き直して復習するようにしていました。韓国海洋大学で履修した科目の特徴をみてみましょう。

①Basic Korean Language II

この講義は、前期のBasic Korean Language Iの続きです。前期の講義を受けていない私は授業についていくのがやっとでした。内容は韓国語の基本文法を中心に、買い物や乗り換えなど日常生活に欠かせない韓国語を中心に学びました。テストはライティングとスピーキングでした。

②Ship Dynamics

この講義は英語で行われ、教科書も英語です。内容は、船体運動と船体運動をどのように解析するかといったことを勉強します。毎週各人が勉強してきた、先生にランダムに指名された学生が内容を説明、質問に答えるといった形の講義でした。

③Offshore Structure Modeling

この講義も英語で行われ教科書も英語です。内容は、海洋構造物のモデリングについて勉強しました。初めの授業で担当の章を与えられて、その章の内容をまとめて最低90分の英語でのプレゼンテーションをするといった方法で進められました。先生や学生から、その都度質問が来るので十分に理解していないと質問に答えることができません。

◆大学の情報

①寮

まず、皆さんが気になるのはどこに住むのかということでしょう。私がいた寮は学内にあり、4人部屋で中国人3人と暮らしていました。部屋は広く、部屋からは海や釜山港が一望できるので眺めは最高でした。

②食堂、売店

食堂は、誰でも使える食堂が2か所と寮生専用の食堂の3か所あります。写真は寮生専用の食堂と食事の一部です。寮生専用食堂は、バイキング形式なので沢山食べることができます。また、売店も2か所ありました。売店では、おやつ、カップ麺、飲み物、日用品など生活に欠かせないものが全てそろっていました。

◆留学で感じたこと

私は今回の留学を通して韓国、マレーシア、台湾、インドネシア、デンマーク、ベトナム、中国の様々な国の友達を沢山作ることができました。出会った人々は、私にとってかけがえのない宝物の1つです。

また、留学を通して人間的に大きく成長できたと感じています。いつもとは異なる環境で生活することで、日本の日常では気づかないことに沢山気づくことができました。文化、食事、人々の考え方など多くのことが日本と違います。韓国の良さや日本の良さを感じることができました。ここまでなら旅行でも感じる事ができると思います。しかしながら、留学するともう一步踏み込むことができます。なぜならば、そのことについて考えることができる時間が旅行よりも長いからです。韓国、日本とは、どういった関係なのか、何が課題になっているのかなどを考えることができました。こういうことを考えているうちに、そもそも自分とは何かを考えるようになりました。どういった人間で何をしたいのか、どういう人間になりたいのか、そのためには何が必要になるのかなど自分を見つめる貴重な時間が留学にはあります。



もしも留学を考えている人がいるならば、絶対におすすめします。かけがえのない友達やまだ見ぬ自分に出会ってみませんか？もう扉は開いています、勇気ある一歩を。皆さんにとって素敵な留学になることを願っています。

派遣先: 上海海洋大学 派遣期間: 2019年2月～2019年6月

食機能保全科学専攻1年 津村 知樹

私は学部卒業直前の2019年2月から修士進学後の同年6月まで、上海海洋大学に留学した。研究室に所属するまでは部活中心の生活で、留学には全く興味がなかったが、OQEANOUSのことを知ってから少し海外のことを考えるようになり、韓国STP(サマー・スクール)で初の海外を経験した後、上海IJP参加を決意した。



◆文化の違いに戸惑いながらの生活

学生寮では2人部屋をイスラム教徒とシェアして生活していた。初めは習慣が違いすぎて戸惑いもあったが、のちにお互いの価値観の違いを理解し、配慮しあって生活するようになった。厳格な禁酒、断食月といった宗教を肌で感じる生活は留学しなければできなかった経験だ。慣れるまでは辛いが、お互いを理解できるようになった時、宗教の壁を超えて人と仲良くなれるのだという感動がこみ上げる。このパンフレットを読んでいる皆さんにもこの感動を是非味わってほしい。

◆研究も部活も、やろうと思えばいくらでもできる

研究内容は東京と派遣先の研究室で十分に話し合ってから渡航するため、修士研究を留学しながら進めることができる。言葉や文化が違う人と一緒に共通の目標に向かって研究に打ち込むことには楽しさを感じる。現地の先生との打ち合わせ次第では、大学の外に出て研究施設を訪ねる等、単なる語学留学ではできない経験も可能だ。



上海海洋大では留学生向けの部活動もある。私は龍舟に初挑戦し、様々な国から来た留学生と中国人学生と一緒に練習をこ

なし、公式大会にも出場した。練習を通し、励ましあい、部活への思いをぶつけあい、悩みを打ち明けたりもし、かけがえのない友人と出会えた。



IJPの必要条件である授業をこなしつつ、研究も部活も全力で打ち込めば、4か月はあっという間だ。せっかくの留学だ。のんびり過ごすのもいいが、何か好きなことに打ち込める留学生活を経験してほしい。研究も部活もしっかりこなせば、人と信頼しあえる関係を築くのに言葉の壁は関係ないことに気づくことができる。



◆必要なものは決意だけ。お金も単位も心配無用

OQEANOUSは海洋大で最もサポートが手厚い留学プログラムだ。留学しながら卒業に必要な単位を無理なく取得できる。また、奨学金も充実しており、コーディネーターが手続き等サポートしてくれるので、決意さえあれば、いとも簡単に渡航できてしまう完璧なプログラムだ。OQEANOUSで海外経験を積み、その経験を就職に生かすこともできるだろう。行くなら今がチャンス！ OQEANOUSを通して、学生のうちでしかできない経験をしよう！



＼ OQEANOUS DDP 留学体験記 ／

派遣先: 上海海洋大学 派遣期間: 2019年4月～2020年3月
海洋システム工学専攻1年 加藤 哲

◆ 留学の動機

私が所属している日本の研究室は電子制御を専門とし、海洋ロボットの開発・制御を行っています。一方、留学先の研究室は、機械設計・シミュレーションを専門としています。そのため、お互いの研究室の強みを生かせば、より高度なものづくりが可能になると考え、留学を決意しました。また、私は将来、海洋開発に携わるエンジニアになり、グローバルに活躍したいと考えています。そのため、同じ工学分野を学んでいる学生とともに研究を行うことが将来に役立つと考えたことも留学を考えた一因です。

◆ 今までの海外体験

昨年の夏に、オケアヌスのサマースクールプログラムに参加し、韓国へ2週間留学しました。これが、初めての海外体験でした。その際に、韓国人、中国人、日本人で4人ほどのグループを作り、テーマを決めて調査し最終日に発表するという機会がありました。私は、英語が得意ではありませんが、何とか話し合い、発表を成功させることができました。この経験が今回の留学に対する壁を低くしてくれたと感じています。

◆ 留学の内容

上海海洋大学に9か月滞在し、研究室に所属して研究をしながら専門教科と中国語の講義を受講しました。研究については、小型の電動バギーを遠隔操作するためのシステム開発を行いました。同期の中国人と協力して行いました。彼とは専門分野が違うため、私が機械的な部分でわからないところは教えてもらい、彼がわからないところは教えるといった具合に協力して進めていきました。しかし、彼も私も英語が得意ではないため、コミュニケーションには時間がかかりましたが、図などを書いて説明したり、翻訳アプリなどを使うことでかなり細かいところまで内容を伝えることが出来ました。最も苦労したのは、部品の調達でした。オンラインショップで購入するのですが、中国語で検索しなければ見つけれなかったり、日本で使用していたものが販売していなかったりなどがあり、多くの時間と労力を消費しました。しかし、言語も専門分野も違う学生と同じ目標達成のために努力したことは私にとって貴重な経験になったと思います。大学での講義は留学生向けのものを受講しており、中国以外の留学生と交流する機会がありました。また、寮は相部屋でウズベキスタン人と共同生活をしていました。彼らはとても陽気で、道や廊下ですれ違う時に握手をするなど、日本人の私にとってはとても新鮮で楽しい毎日でした。

派遣先: 韓国海洋大学 派遣期間: 2018年4月～2019年3月
海運ロジスティクス専攻2年 関根 彩姫

私はOQEANOUS-DDPを利用して2018年4月から2019年3月まで、韓国海洋大学に留学しました。ここでは、私が留学中に体験したことを紹介させていただきます。

◆ 留学をしたきっかけ

このOQEANOUSというプログラムを知ったきっかけは指導教授からのすすめでした。実際に韓国海洋大学を訪問し、大学の雰囲気を感じ、IJPで参加中の学生に話を聞き、韓国海洋大学の教授とも話をする機会を設けていただきました。OQEANOUSについて知っていくうちに興味がわき、他国で学び研究をすることは視野が広がり、将来に役立つと考え参加を決意しました。

◆ 授業紹介

私は専門科目を4つと韓国語を2つ受けました。韓国海洋大学は1コマ3時間制で、教授によっては早めに切り上げ、途中休憩をはさみながら進めていきます。専門科目は基本英語または韓国

語での授業でした。



前期

① Stability of Marine Vehicles

与えられた教材を基に自分が理解したこと、わからないことをパワーポイントにまとめ、教授に対して発表する形式の授業でした。

② Numerical Analysis

配られる資料をもとに授業が進みました。資料はすべて英語で授業言語は英語と韓国語でした。中間テスト、授業内発表、期末テストがあったので、後れを取らないように予習復習の時間を毎日2時間は取っていました。

③ Basic Korean IとII

初級の教材を使って、読み、書き、会話を学びました。まわりはレベルが同じくらいの留学生がほとんどで、先生方も細かく丁寧に教えてくれます。中間テストと期末テストがあり、Writing、Listening、Speakingでした。

④ Power System Modeling and Simulation

①に同じく、与えられた教材を基に自分が理解したこと、わからないことを他学生とパワーポイントにまとめ、教授に対して発表する形式の授業でした。

⑤ Advanced Offshore Structural Design

OFFSHORE STRUCTURE MODELINGという教材を基に、章ごとに各自割り振られ、授業内発表をしました。授業は韓国語で進みましたが、私は英語で発表をしました。

◆ 大学生活や住居環境

下はある一日の生活例です。

部屋にはベッド、机、クローゼット、靴箱が設置されています。冬から春先は床暖が完備されているので快適に過ごせます。

〈一例〉

07:00	起床
09:00-12:00	授業
12:00-13:00	昼食・休憩
13:00-17:00	研究室
17:00-18:00	夕食・休憩
18:00-	研究室
21:00-	帰宅



食事は寮の食堂か、出前を取るか外食でした。寮の食堂はバイキング形式なので、量を調節できます。

【寮の食事例】



【出前の食事例】



大学主催の留学生文化体験にも参加しました。伝統服である韓服を着たり、テコンドーを習ったり、韓国の文化に触れながら、ほかの留学生と交流ができ、良い経験となりました。



MT【学会&研究室旅行】

5月に学会への参加と研究室旅行を兼ねて済州島へ行きました。学会は船や海に関わる学会の合同発表大会であり、様々な分野の発表を聞くことができました。研究室旅行では、世界遺産やグルメ、カフェを巡り、夜はバーベキューをしながら教授や学生と親睦を深めました。

◆ 留学生生活を終えて感じること

OQEANOUSのDDPは、卒業に必要な単位と共同学位を取得でき、手厚いサポートが受けられる留学制度です。現地には様々な国の学生がいます。ほかの国の文化や言語に触れ、出会い学ぶことで、思考の幅が広がりました。これは生きていながら大きく役立つ部分だと感じました。また、失敗を恐れず自分から積極的に行動することの大切さを学びました。黙っていても誰も助けてはくれません。そんなとき、先生や友人にもっと頼っていいんだよと言われ、考えが変わりました。



韓国での留学生生活は私にとってかけがえのない経験であり、素直に行ってよかったと思います。留学中は研究や授業に関する質問ができるたくさんの友人に恵まれました。また、お酒と一緒に飲んで本音を語り合い、時には冗談を言ったりできる仲間もできました。留学は楽しいことばかりではありませんが、辛かったことも終われば良い思い出です。



＼ OQEANOUS IJP Student from KMOU ／

在籍大学: 韩国海洋大学校 受入期間: 2019年4月~2019年9月

海洋環境学部 JIN Hyeok

◆ Motivation to enroll in IJP Program

'Take action!' 'Whenever I don't know what to do, I have a motto of "Once take action and regret it even if it was off-course." Studying abroad as an exchange student was one of the bucket lists of university life so I immediately applied for IJP. The fact that I was able to study abroad as an exchange student was good, but one of the main reasons I applied without hesitation was that I was able to take graduate school classes as an undergraduate student and do interesting research in a laboratory with a foreign academic advisor.

◆ Preparation

After I heard a notice of acceptance, I was worried about what would be the best preparation before I went. Spring semesters in Korea began in March but April in Japan so there was preliminary preparation time. While I was thinking like 'Studying related majors, studying Japanese, and taking a rest?', I thought let's study language because I found that communication is the most important in other countries where culture and environment are different.

◆ Beginning of life in Japan

I arrived on April 1 in Japan with half of expectation and concern.

I stayed in a single room dormitory for one semester in Japan. Unlike the Korea Maritime and Ocean University dormitory, it was best to have induction that I could cook in the room and air conditioning.

Coastal Engineering and Environment Laboratory (CEEL) that I belonged has seminars every Friday. Students in the lab present their research freely, and after that, they receive feedback from professors and students. CEEL Laboratories have 17 students who are instructed by four professors.

I introduced myself to them at the first seminar that I had after arriving in Japan and they gave me a welcome party after that. There are many international students from various countries (Korea, China, Vietnam, and Myanmar) so CEEL Laboratories are the place where you can make your own dishes and taste each other's dishes and share and talk about each country's culture.



< Welcome and farewell party >

About a month and a half later after almost adaptation to life in Japan, I had a new problem. I didn't want to finish the exchange student by taking graduate school classes and Japanese classes. For the remaining 100 days, I wanted to set one study topic doing with professors in CEEL and present the results about it that I choose. It was because of the idea that I could find a topic of interest while working with professors and students. I'd like

to do many things but my problem is that it's hard for me to choose only one thing among many things that I'd like to study. It wasn't anyone's pressure, but I was obsessed with having to decide in a short time like when I was in Korea.



< 'Jeon' and 'makgeolli' party >

◆ A new goal

I used to take action as fast as I can but I had a week of deciding what research to do here because I have decision trouble that doesn't allow me to easily choose one of the many things that I want to do. To make matters worse, a professor in CEEL told me that it's very difficult to study tsunami during short times when I said I would like to do research on tsunami which is the active research in Japan. Also, when I asked for advice on what kind of research to do, he advised that courses of finding a research topic that I want to study by myself are one of the important parts of the research. As a result, I set a goal as reviewing an existing paper written by other authors perfectly.

After that, I had to receive data from other scenarios because I could not receive the data of the previously thought scenario. I also had difficulty to study on my own about X-beach model because there was no one in CEEL who is able to handle it. However, I was able to finish my life in Japan by achieving a final presentation for the reviewed paper. It was a better experience than ever because I accomplished what I decided to do and set a goal additionally. If I had thought to study one topic but hadn't taken action on it, last results would be different from now. My first step in thinking about the research topic I wanted to do and asking for advice from the professor was very helpful.

◆ New experience

One day, my friend, who was living in the same dormitory, suggested climbing to the summit of Mt. Fuji. We decided to hike Mt. Fuji for two days without sleeping at night.

On the day of the climb, we didn't know whether it would be rainy due to the influence of typhoon CROSSA, and if it rained a lot, it was impossible to climb the mountain so we headed to 5th point of Yosida route with half of expectation and concern like I visited Japan for the first time.

At the Shinjuku Bus Station before departure, it was a steamy heat, but as soon as we arrived at the 5th point (2,305m), the cool weather made me tremble. After having dinner, we started hiking at 7:30 pm, but there was no problem up to the 9th point (about 3,500m) except for tiredness of no-sleep based on drinking water and the effect of sugar intake through chocolate. But as soon as I passed the 9th point, my head hurts sharply. I think it was due to mountain sickness. I was very dizzy due to it but I put up with it with the thought that we reach the top soon. After reaching the summit at about 3:30 am, I rested for 30

minutes to relieve that symptom and waited for sunrise. The sunrises that we saw above the clouds was spectacular even though I was tired and dizzy. It was a gift of unexpected achievement and challenging spirit from a new experience although fourteen and a half hour climbing was so hard.



< Summit of Mt. Fuji, 3,776m, Sunrise seen above clouds >

◆ To future applicants of Campus Asia program

Campus Asia's OQEANOUS offers a variety of programs. In addition to credit exchange, students can earn multiple degrees when they participate in the DDP program. If you participate in the IJP program as an undergraduate, you can take pre-graduate school lectures in advance. It is a big advantage that if you do not have any research in progress at the host school, you can conduct new research with the advisor in Japan. It helps you set the direction of the future research topic. If you have ongoing research, you can get feedback from many people. Besides, TUMSAT and SHOU both have more than 100 years of tradition so you can take various kinds of classes.

Above all, I think that the biggest advantage is that applicants can live in another country with scholarships. Living in different languages and cultures, you can gain a lot of experience from the time that everything is clumsy and awkward to the moment of adaptation. New experiences will give a new direction.

＼ OQEANOUS DDP Student from SHOU ／

在籍大学: 上海海洋大学 受入期間: 2017年9月~2018年10月

海洋管理政策学専攻 LIAO Kai

Hello, this is Liao Kai, I am gonna share my experience in the Double Degree Program. I got my master degree in industrial economics from Shanghai Ocean University (SHOU) in June 2019. Two years ago, I got an opportunity to study at Professor Sasaki's lab due to double degree program between SHOU and TUMSAT. Hence, I am now also a second-year master student in TUMSAT. My introduction can be separated into five parts:

◆ Why I join DDP program?

To be frankly, the reason why I want to enroll in the program is my curiosity. During my first year in SHOU, many FAO experts and foreign scholars were invited to share their recent studies, I found their researches are interesting and novel, so I become curious about studying abroad. OQEANOUS Program began in 2017, two years ago, my information about this program was limited, all I know is that there are many excellent professors in my college graduated from Japan, and I wanna know what they learned during their study in Japan, so I made my decision.

◆ Challenges and Difficulties that I faced during the program

Speaking of challenges at TUMSAT, from my perspective of view, the biggest challenge is the language barrier. Lucky for me, I received language training course in TUMSAT, so I can understand the daily conversation in Japanese. But when I took the course of Academic Japanese and Marine Economic and Policy, it was quite challenging, I have to spend more time in making preparations for the class, and even worried about my results after the examination.

The common difficulty when studying abroad is probably the loneliness, sometimes I may doubt whether I made the right decision or not. But loneliness can be treated as our best friend, someone has told me before that if you know how to find

happiness when you are lonely, you can have the courage to overcome most difficulties in your life.

◆ Merits or demerits to join DDP

Merits: I have always believed that life is more about experiences, join this program can enrich my life experiences. I can got the opportunity to learn what are the latest research trend in Japan.

Demerits: Personally, I may get frustrated and sensitive easily when studying abroad. But I am now trying to control myself.

◆ What did I gained from DDP program and my future plan

Before I join this program, I wanted to work as an intern in Food and Agriculture Organization to carry out research project in African country. This programme has gave me a lot of confidence and courage to challenge myself, so I am now more focused on my life goals.

During my study in Japan, I was inspired by a lot of teachers, their classes have shown me how to put the theoretical knowledge into real practice, how to conduct research project and educational program. Besides, I have also learned Japanese, Japanese culture and tradition. I think I can be more positively influenced by the academic atmosphere in TUMSAT, so I chose here to continue my studies once again.

◆ Short introduction about SHOU

The students at SHOU are very friendly, please don't afraid of asking for help. If you are outgoing, you can make a lot of Chinese friend in SHOU. If you are introvert, you can stay in the library from 8:00 am to 10:00 pm, the cafeteria can serve your meal, you don't have to cook for yourself.